

あこがれの農業を通じ 自分の未来を見つけない

小船未来さん ころね・みく 23歳 緑のふるさと協力隊



操縦方法を教わりながら田植え機を上手に操る小船未来さん

透き通る青空の下、さらさら輝く田んぼには、泥んこになりながら田植え作業に汗を流す、七代目「緑のふるさと協力隊」の小船未来さんの笑顔があった。京都の住宅街で生まれ育った小船さんは、キャンプや海水浴などの思い出から「自然」に強い興味を抱く。大学は「自然を深く学びたい」と、北海道で環境教育を選考。道内の動植物や自然と触れ合う中から「自然と生き、誇りを持って働く農業

者」の姿に、強く引かれた。卒業を控えた昨年。「本当は何がやりたいのか」と進路に悩んだとき、以前目にした協力隊の活動が頭に浮かんだ。「農業の世界に飛び込んでみよう」。そう決意し、遠野での一年を選んだ。「みんな親切で、今は楽しいことばかり。でも本当は、もっと苦しい部分があるんですよね」と、期待と不安をのぞかせた。それでも、中学から六年間続けたバスケットボールで学ん

だ「どんなときでも楽しむ」をモットーに、慣れない田植え作業も懸命に取り組んでいる。「泥の感触が気持ちいい」と、楽しみを見つけては農業と向き合い、消防ラッパ隊や鱒沢神楽に加わるなど、地域の人たちとの交流も大切にする。「ここでの暮らしの中で、将来進むべき道を見つけた。今は少しでも農業を知りたい、たくさんの人と交流したいですね」と未来を思い描き、胸を弾ませる。

◎Profile 昭和61年京都府生まれ。北海道教育大釧路校をこの春卒業し、中学・高校理科の教員免許を取得。コテージランドかしわぎを拠点に農山村での暮らしを1年間学ぶ。現在、自宅前の畑を借りて野菜作りに奮闘中。

◎Memo 緑のふるさと協力隊は、特定非営利法人地球緑化センターが実施する人材派遣制度。16回目となる本年度は、全国35の農山村地域に派遣し、地域の活性化に貢献している。



2009. 6
No.48

●目次

- 02 風の人
小船未来さん
- 03 特集◎地域医療
「遠野方式」の行方
- 12 市からのお知らせ
各種検診案内/市長ひとこと/早池峰山交通規制
- 16 ニュース&トピックス
松崎ミワ子さんが瑞宝単光章受章/JR文化財団がかやぶき屋根再生に助成/佐々木喜善記念館リニューアルオープン/漫画家水木しげるさんが記念ポスターをデザイン/生保アドバイザー協会が福祉車両寄贈/各種スポーツ結果
- 18 学びのいずみ
松竹特別公演「恋桜」/遠野わらすっこまつり/各種教室開催/おすすめしたい本 ほか
- 20 まちの話題
八戸・遠野ウオークリレー/宮守町の迷岡農園で植樹祭/シイタケの植菌作業を体験/緑峰高開校記念講演会開催/佐々木北斗さんの句碑建立/地域トピックス(綾織町・土淵町)
- 22 ふれあい広場
わが家のアイドル/大きくなったら何になりたい?/サークルクラブ紹介/青春のトーク/ともに歩んで半世紀
- 24 おしらせ
- 26 保健福祉情報館
休日急患診療当番医/移動献血車/わらすこだより/おめでた/おくやみ など
- 27 市民カレンダー
- 28 遠野遺産
馬子繋ぎ



◎表紙の写真

5月17日、遠野中学校では恒例の運動会が行われ、生徒396人が4チームに分かれ熱戦を繰り広げました。一年男子63人は、組体操初挑戦。一糸乱れぬ団結力でピラミッドの形を見事完成させると、場内からはたくさんの拍手が送られました。

わたしたちの住む町から、病院が無くなってしまったらあなたは、どうしますか? 全国各地で自治体病院の閉鎖や休診が相次ぎ、地域の医療が危機的な状況に陥っている。

特集◎地域医療

「遠野方式」の行方

少子高齢化の波や、地理的ハンデをアイディアとマンパワーで乗り越えてきた遠野の医療。身近にある病院、最前線で命を守る医師、自分や家族の健康のこと。今月は、遠野の医療を考える。



「患者さんとのコミュニケーションを大切にすることを意識したい」と笑顔で患者さんと話す緑峰高3年の沖根和さん(5月13日、遠野病院で行われたふれあい看護体験)